

関西国際空港で、 eGPU の実証実験開始

3月26日、多摩川エアロシステムズ（株）（<http://www.tamagawa-as.jp/>）発表。同社は、関西エアポート（株）、（株）エージーピー、（株）Peach Aviationと共同で関西国際空港（以下、関空）第2ターミナルにて、駐機中の航空機へ電気供給を行う電気式移動電源車「eGPU（electrical Ground Power Unit）」の実証実験を、3月27日から実施中であることを明らかにした。本実証機の導入は、国内空港初となる。

● eGPU の特徴等

本 eGPU（ITW GSE 7400 eGPU）は、バッテリー充電式で低騒音となっている。同装置の CO₂（二酸化炭素）排出量は航空機の APU（Auxiliary Power Unit：補助動力装置）による発電の約 30 分の 1、移動式ディーゼル GPU（Ground Power Unit：地上動力装置）の約 10 分の 1 で、従来機材よりも環境負荷が少ない。

同 eGPU は、世界的な地上支援機材メーカー ITW GSE（<https://itwgse.com/>）社製で、多摩川エアロシステムズが国内販売代理店で提供している。

● 関空での航空機への電源供給状況

関空第 1 ターミナルでは、駐機中の航空機へ電



力の供給を行う GPU が地下に埋設され、固定ケーブルから各航空機へ電力の供給が可能。供給電力は、駐機中の航空機での照明等に利用される。

一方、関空第 2 ターミナルでは常設 GPU 設備がなく、航空機の APU による電源供給、もしくは車両に搭載した移動式ディーゼル GPU で電力供給する。